

軍事工業特集：ウクライナ軍事技術者は2度中国に渡る

漢和防務評論 20180106(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国及び北朝鮮の軍事技術の躍進は裏にウクライナ技術者の支援がある、と KDR は報道していますが、ウクライナ技術者が介入する背景には、ウクライナの軍事企業が不振で、技術者が大量に海外流出しているから、と述べています。

ロシアとウクライナの軍事企業の関係は、双方が制裁を課してお互いに足を引っ張っていますが、その裏には米国の圧力があることを示唆しています。

中国は、この機に乗じウクライナの巨大軍事企業を支配しようとしたが米国の圧力で失敗したとのこと。

本誌編集部モスクワ

キエフ発 KDR ニュースによると：アントノフ航空機会社、MOTOR SICH 及びハリコフ戦車工場などのウクライナの軍事技術者たちは、海外流出が激しいという。これは、ウクライナ軍事工業にとって、2度目の危機である。1度目はソ連崩壊後、ウクライナの軍事技術者が大量に海外流出した。当時中国は、1992年から”双引”プロジェクトと命名し、黒海造船所の空母設計者及び熟練工を含め、大量のウクライナ軍事技術者を招請した。最近になって、再び元黒海造船所の空母設計師が中国に行ったことを公表した。

しかし当時の KDR の報道及び調査によると、1990年代初期は、ウクライナはそれほど困難な状況ではなかった。なぜなら当時ウクライナ軍事工業とロシア軍事工業の関係は良好であり、したがってそれほど困窮してはいなかった。1997年以降になると、ロシアとウクライナの軍事工業は整理が進み、元の協力関係を基本的に回復した。そしてロシアの武器輸出が好転し始めると、ウクライナの部品生産も逐次軌道に乗り出した。

しかし4年前から、正確には2008年から始まったロシア、グルジア戦争以降、ロシアとウクライナの関係が悪化し始めた。ウクライナ東部戦争が始まって以来、ロシアとウクライナは相互に軍事制裁を開始し、ロシアの軍事工業は、部品不足に直面すると同時に、ウクライナ軍事工業界にとっても自殺行為となった。ウクライナの軍事工業は、主力戦車、輸送機、ヘリコプターのエンジン、輸送機のエンジン、空対空ミサイル、対戦車ミサイル、ソ連時代は ICBM 戦略ミサイル、巡航ミサイル等の設備一式のほか、伝統的に部品生産を主としていた。当然輸出先はロシアが最大であり、またロシア製武器を使用する国家にも部品を輸出した。

またウクライナは、ソ連時代、戦闘機、輸送機、ヘリの修理工場があり、ミグやスホーイ戦闘機の修理は大部分ウクライナの工場で行っていた。

しかし4年前から、一連の変化が出現し始めた。

第一、国際的な軍事装備品展示会に参加するウクライナ代表团及び展示スペースが大幅に縮小され、過去の半分にも達しなくなった。過去には参加した大量の軍事工業の指導者たちは姿を消し、新人が輩出してきた。ロシアに対する制裁を始めてから、ウクライナ軍事工業内部で”親ロシア派、官員”の大規模整理が始まった。その中には、アントノフ工場を含む、多くの企業の高級指導者が含まれ、”ロシアと過度に密接な関係がある”者が相次いでリタイア、辞職を迫られた。

これと同時に、中国の国営企業、国営軍事企業隷下の”ペーパーカンパニー”が大挙してウクライナ企業に投資し始めた。これは1990年代初期、中期には見られなかった。1990年代後期のウクライナ軍事工業改革は、ロシアから学習することから始まり、国営企業を骨幹とし部分的な株式会社方式を採った。企業の民営化レベルを高め、一定程度の競争環境を形成しようとした。

KDR は次のように認識した：

中国の企業は、**6TD2** 型戦車エンジンを生産する工場の株式を入手しようとしている。驚くべきことだが、これと同時に **SKYRIZON AVIATION** という無名の会社が世界的な有名な大企業 **MOTOR SICH** エンジン会社の株式 41% を入手しようとしている、と。

しかし最終的に、2017年8月にウクライナの最高裁判所が判断し、中国はこの株式購入を中止せざるを得なかった。

いわゆる中国が **AN-225** 輸送機を生産するとのニュース源はここにある。その理由は、**SKYRIZON** 会社が中国重慶で **AN-225** 及び **AN-124** 大型輸送機のエンジンを生産することに”双方が同意”したと宣言したからである。

モスクワには多くの伝聞ニュースが存在した。たとえばアントノフ会社がこの2機種の輸送機の設計図を中国に売ったとか。

中国の株式購入活動の下心は、明らかに分かる。それは、ウクライナの各種航空エンジンの技術、設計図、人材を獲得するためである。

MOTOR SICH 会社は、ソ連時代から一貫して輸送機、軍用ヘリのエンジンを生産してきた。この会社の今年5月の財政状況は破産状態にある。なぜならロシアとの航空協力関係が破棄され、ロシアは **MI-17**、**MI-28**、**KA** シリーズヘリに使用するエンジンを本国で生産することを決定したからである。多くのロシアのヘリのエンジンは、設計はロシアで行い、ウクライナは生産のみとなる。レニングラード設計局は当然エンジンの設計図を持っている。一方、ロシアはウクライナの **MOTOR SICH**、アントノフ等の会社に対して、生産したエンジン、輸送機の部品を提供する。双方は相互依存の関係にある。

中露が聯合して設計した次世代型大型ヘリはエンジンを選定しなければならない。それは **MOTOR SICH** が生産した **D-136** エンジンになるのかどうか。現在ウクライナが直面している状況を見ると、状況がどのように変化するかはわからない。

ウクライナ東部戦争が終結して2年も経つのに、なぜウクライナ軍事工業は大きな困難に直面し始めたのか？

KDR は疑問に思い、ロシア軍事工業界の記者会見の場で責任者に対し関連問題について何度も質問した。

KDR : ウクライナの軍事制裁は、ロシアの航空エンジン工業、部品製造にどのような困難をもたらしているか？

ロシア軍事工業の責任者は、ウクライナ及び西側の対露制裁が確かにロシアの軍事工業の円滑な生産に支障となっていることを否定しなかった。しかし次のように述べた。

A : 問題は逐次解決している。第一、制裁は主として新たな協定は結べないということである。しかしすでに協定している部品提供は制裁の範囲外である。双方はこのように公平に行っている。

次に、過去 3 年間、ロシアは基礎工業に対する大量の投資を始めた。従来ウクライナで生産していた武器部品をロシアで生産する。同時に中国等、その他の国家にも目を向け始めた。現在、中国は、ウクライナに代わってロシアに提供する一部の部品の生産を始めた。

1990 年代、中国は、ロシアから S-300 地対空ミサイル、SU-27/30 戦闘機、艦載レーダー、空対空ミサイル、及び空対地ミサイルの部品を輸入した。相当多くの部分がウクライナ製であった。その後、中国は別ルートを採用し、ウクライナから直接部品を入手するとともに、コピー生産を開始した。当時 SU-27 の技術輸出許可に伴って、一部の部品製造技術は、一緒に中国に移転された。したがってこれらの部品は技術レベルが高くない部品であった。現在、中国が大量生産能力を持ち始めると、中国製部品がロシアの市場に進出し始めた。

ウクライナ軍事工業は、實際上、3 大基幹企業で運営されている。それらは、アントノフ航空機会社（今年は何機輸出したであろうか？）、MOTOR SICH エンジン会社、及びハリコフ戦車工場である。ソ連時代には当然 ICBM ミサイル工業、巡航ミサイル工場があった。これらの工場は現在民用の運搬ロケットを生産しているが、破産の瀬戸際にある。3 大基幹企業は目玉商品がなくなりつつあり、生産維持が困難になりつつある。したがって大量の人材流出が起きている。現在のウクライナ政府は親西欧であり、米国の圧力が作用している。その圧力は 1990 年代中、初期に比べ強大になっている。したがってウクライナの最高裁判所は中国が MOTOR SICH 企業の株を買うのを無効と判断した。しかしこの圧力は、ウクライナのエンジン設計師、軍用輸送機設計師、及び熟練工が、退職後、密かに中国に渡るのを阻止できない。

以上